

第4学年2組 道徳科学習指導案

令和2年11月26日(木) 第3校時
場所 4年2組教室
児童数 男子16名 女子14名
授業者 山中 諄博

1 主題名 友達への注意【内容項目B-4 友情、信頼】

2 本時のねらい 登場人物が友達に本当のことを話すか話さないかを考える活動を通して、よい友達関係には、ときには助言し合えるような信頼関係が必要なことについて気づき、友達とよりよい関係を築いていこうとする態度を育てる。

教材名 大きな絵はがき (出典「新しいどうとく4」東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本項目は、友達関係における基本とすべきことであり、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことに関する内容項目である。小学校3年生及び4年生の指導の観点は、「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと」である。「友情、信頼」は、低学年「友達と仲よくし、助け合うこと。」で生まれ、高学年「友達と互い信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。」へ発展していく。

中学年の段階においては、活動範囲が広がることで、集団との関わりも増え、友達関係も広がってくる。また、気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向があり、集団での活動などがこれまでになく盛んになる。しかし、自分の利害にこだわることで、友達とトラブルを引き起こすことも少なくない。友達のことをよく理解し、信頼し、助け合うことで、健全な仲間集団を積極的に育成していくことが大切である。そのためには、友達のよさを発見することで友達のことを理解したり、友達とのよりよい関係の在り方を考えたり、互いに、助け合うことで友達の大切さを実感したりすることができるように指導することが大切である。

(2) これまでの学習状況及び児童の事態について

本学級の児童は、明るく活発で休み時間は気の合う友達と楽しく過ごしている。外に遊びに行く児童や教室で話している児童など、過ごし方はそれぞれである。グループ活動では、男女関係なくお互いに協力して活動している。さらに、友達にもしっかり注意することができる児童がおり、授業前にはクラス全体に呼び掛けをする場面が見られる。

しかし、友達がよくないことをしていてもそのことを指摘できない児童もいる。一緒になってふざけてしまったり、見て見ぬふりをしてしまったりしている場面が時々見られる。指摘することで友情が壊れてしまうことを恐れているのが原因ではないかと考える。また、グループを作って遊ぶ場面も見えるようになり、今後も利害にこだわって友達を関わっていく児童が増えていくことが予想される。さらに、目の前でよくないことをしている友達がいてもそれを一緒に隠そうとする態度をとる児童もいる。

児童に行った調査では、次のような結果であった。

(1) 友達がいてよかったことはありますか。	
ある 28人	ない 0人
・一緒に遊べる ・学校が楽しくなる ・お話しができる ・勉強を教えてくれる ・励ましてくれる ・助けてもらえる	
(2) 今までに友達に伝えようか迷った時に伝えたことはありますか。また、伝えた方がよかったと後悔したことはありますか。	
伝えた 13人	後悔した 2人 どちらともない 12人
伝えた ・おしゃべりやふざけていたことを注意した。 ・いけないことをしていたから伝えた ・ルール違反をしていたからつたえた	
後悔した ・勇気がなかった ・言った後のことを考えたら怖くて言えなかった。	

児童のアンケートの結果を見ると、友達がいてよかったと全員が思っている。このことから、友達の大切さについては理解しているのだろうと考えられる。それに対し、友達に伝えようか迷った時に伝えたことがあるかという質問に対しては、伝えたという人数が約半分だった。また、友達にいけないことをしつかりと言える児童と言えない児童がいるということも考えられる。

この結果から、よい友達関係には時には勇気をもって友達に自分の思っていることをはっきりと伝えることも大切であるということを考えさせたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、料金不足の定形外郵便をもらった広子が、送り主である友達の正子に忠告しようかしないでおこうかと迷うお話である。展開場面では、母の「お礼だけで言っておいたほうがいい」という言葉と、兄の「忠告してあげたほうがいい」という考えから、主人公の気持ちを考えることで本当の友達関係とはどのようなものか考えさせ、仲が良いからこそ言わないでおくことがよりよい友達関係なのか、仲が良いからこそ本当のことを伝えることがよりよい友達関係になるのかを話し合わせたい。特に、本学級の児童は見て見ぬふりをする児童が多いため、伝えた場合と伝えなかった場合の双方の今後の正子の様子も考えられるように指導していきたい。

主発問においては、「あなたが広子と同じような絵はがきをもらったとしたら、どうしますか。」と問うことで、自分だったら仲の良い友達に対し言えるか言えないかをじっくり考えさせ、お互いの立場の理由を聞き合い、本当の友達関係に必要なものはどのようなものなのかを考えさせたい。

本学級の児童の実態を受け、主に次のことを中心に話し合うこととする。

- ①あなたが広子と同じような絵はがきをもらったら、どうしますか。
- ②広子はどのようなことを考えて返事を書き始めたでしょう。

3 学校研究との関わり

【研究主題】 自己の生き方を見つめ、よりよく生きていこうとする心の力を育む道德教育
 ～考え・議論する道德を目指した授業づくりを中心に～

上記の研究主題を具現化するために、以下の手立てを講じる。

【手立て】

- ①価値の方向付けをするためのアンケート調査の活用

「友達がいてよかったことはありますか。」ということを事前にアンケートとして問い、友達がいることのよさを考えさせる。また、実施したアンケートを授業の導入部分に活用することで、価値の方向付けをする。

- ②考えが深まる意図的な問い返し

考えを聞くだけでなく、「なぜ」「どうして」と問い返すことで、考えを深めさせたい。また、同じ意見でも、理由は違っている可能性もあるため、問い返しをしていく中で、友達の意見を聞き、多角的な考えを持たせたい。

③児童同士で深く話し合うための工夫

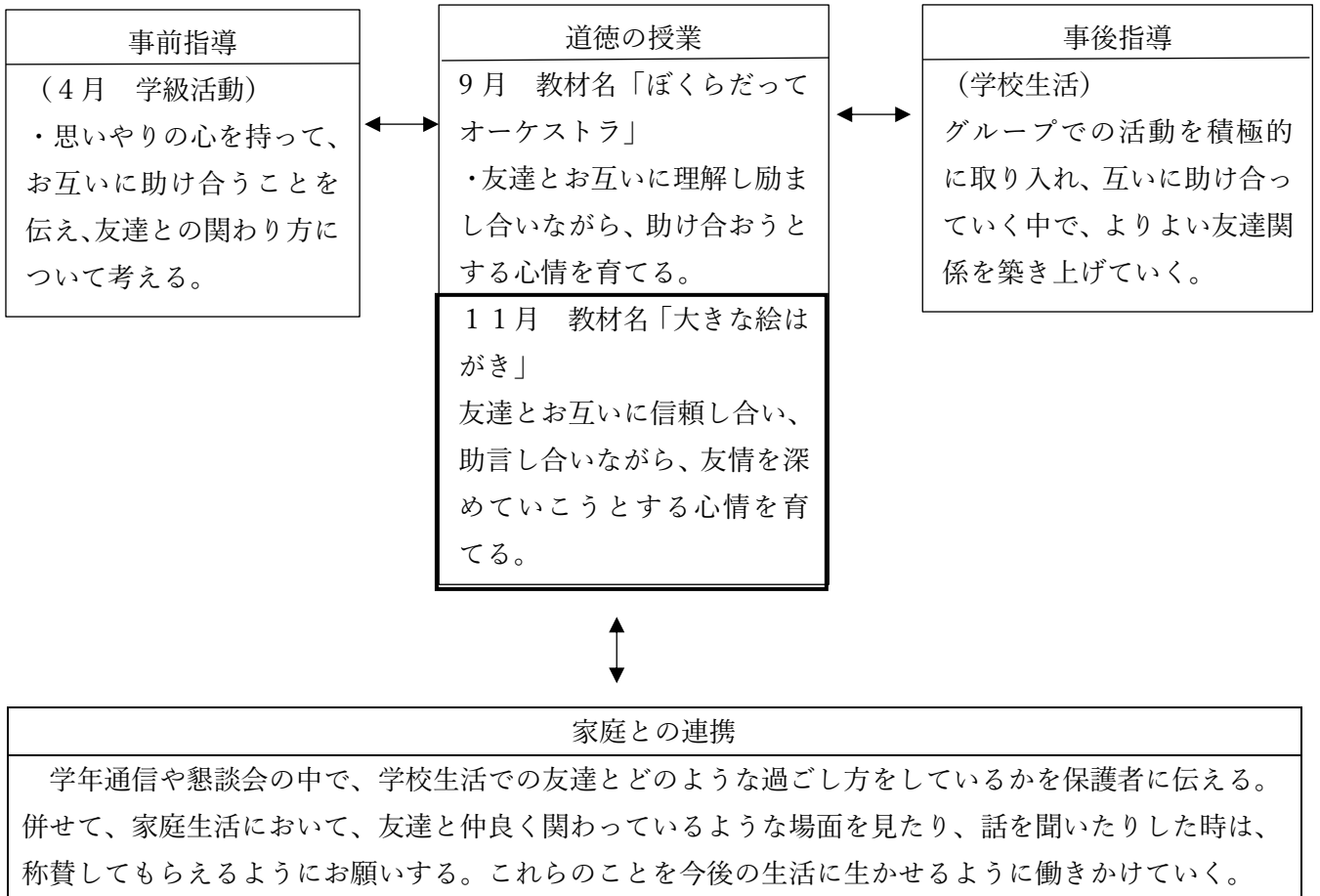
心のものさしを活用し、意見を可視化させ同じ意見の人と話しやすくする。また、自分の意見を話し合いの前に書かせることで、友達と自分の意見を比べやすくする。

4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発問	指導上の留意点 ☆評価の視点
導 入 (5分)	1 「友達がいてよかったことはありますか。」という発問を投げかけ、問題意識を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に遊んでくれる。 ・話を聞いてくれる。 ・困ったときに助けてくれる。 ・励ましてくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値への意識付けをするために、友達がいてよかったことを想起させる。 ・アンケートを基に事例を紹介し、共感させ、発表しやすい雰囲気を作る。
よい友達関係とはどのような関係なのだろうか。			
展 開 (35分)	<p>2 教材「大きな絵はがき」の内容を読み聞かせを聞き、教材文について考える。</p> <div data-bbox="300 1115 903 1339" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【場面の確認】 広子 仲良しの正子から絵はがきが来る 兄→料金が足りないことも伝えるべき 母→お礼だけ伝えるべき</p> </div> <p>(1) 転校していった仲良しの正子から絵葉書をもらって、広子はどんな気持ちになっただろう。</p> <p>(2) あなたが広子と同じような絵はがきをもらったらどうしますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・うれしい ・自分もお返ししたいな ・また会いたいな ・元気にしているかな <ul style="list-style-type: none"> ・伝える 同じことを他の人にしてしまうかもしれないから 正子さんなら分かってくれる。 <ul style="list-style-type: none"> ・伝えない せっかく絵はがきを送ってくれたのに嫌な思いはしてほしくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単に登場人物やあらすじについて確認してから範読する。 ・主人公の気持ちを考えながら範読を聞くような言葉がけをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・久しぶりから仲良しの友だちからの連絡ということを全体で確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・心のものさしを使い、同じ意見の人と話し合ってから全体で話し合いをする。 ・伝えた場合と伝えなかった場合のこれからについても考えさせる。

	<p>3 広子はどのようなことを考えて返事を書き始めたでしょう。</p> <p>4 自己を振り返る。</p> <p>・今までに「友達のために」と考え何かしたことはありますか。また、その時にどのような気持ちやっていましたか。</p>	<p>・迷っている 伝えなくちゃいけないのは分かっているけど、嫌な思いをさせたくはない。</p> <p>・正子なら分かってくれる。 ・信じている ・友達だからこそ伝えないといけない ・怖いけど伝えてみよう。 ・本当の友達だから本当のことを伝えなければならない。</p> <p>・友達が授業中にしゃべっていたから静かにしてくれることを信じて静かにしようと言った。 ・答えが間違っているときに同じ間違いをしないように教えた。分かってくれると思ったから言った。 ・運動が苦手な友達に少しでも好きになってほしいから嫌がれるかもしれないと思ったけどアドバイスをした。</p>	<p>・「正子の立場だったらどうか」という問い返しをして、多面的、多角的に考えさせる。</p> <p>・ワークシートに自分の考えを書かせてから話し合い活動を行わせる。 ・広子の立場だけではなく、広子と正子の関係性を踏まえて考えられるように声かけをする。</p> <p>☆これまでの自分は友達に思いを伝えることができたかを考え、よりよい友達関係について考える。</p> <p>・友達とは楽しいことだけではなく、ときには助言し合えるような信頼関係も大切であることも考えさせる。</p>
<p>終末 (5分)</p>	<p>4 授業をまとめる</p>		<p>・よりよい友人関係とはどのような関係なのか、児童の意見からまとめる。</p>

5 他の教育活動との関連



6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

自分の立場だけで考えるのではなく、友達の立場からも物事を考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

友達のことを思って、「注意、忠告などをしたこと」を思い出し、互いに信頼し合う大切さについて考えている。

7 板書計画

